

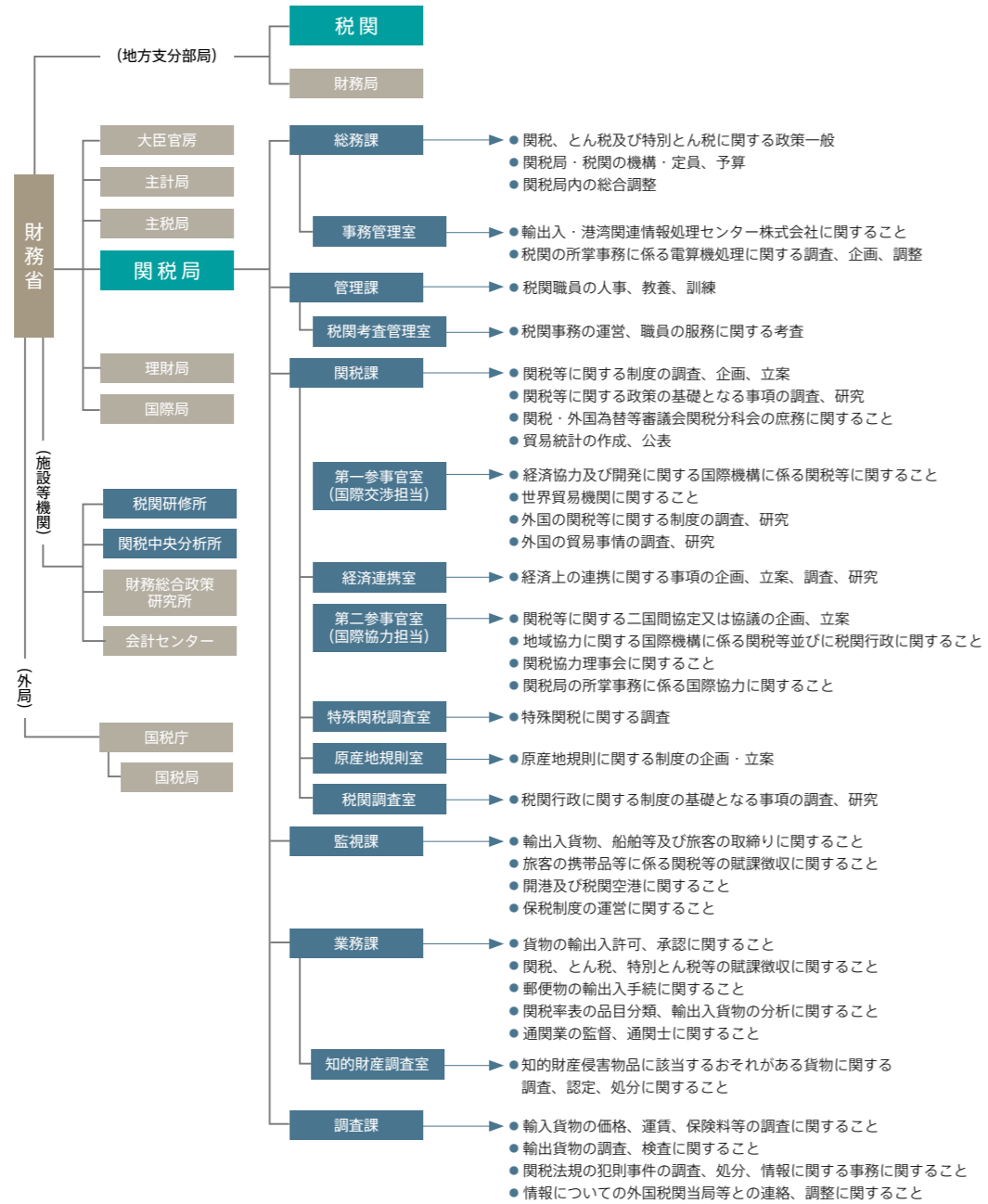
# 関税局

## 関税局の役割

関税局は、財務省の内局の1つであり、いわば税関のヘッドクォーターとして、関税政策・税関行政の企画立案、諸外国との交渉・調整、途上国支援などの業務を通じ、直接的・間接的に税関の3つの使命の実現を目指しています。

関税政策の企画立案においては、国内外の経済社会の変化を踏まえ、国内産業保護と消費者利益のバランスを図った適切な関税率の設定、迅速な通関や水際取締りに係る関税制度の整備などを行っています。

また、経済連携協定等の国際交渉を通じた自由貿易の推進や貿易円滑化のための国際的なルール作り、その他、関税技術協力等を通じた途上国支援なども行っています。



日タイAEO相互承認署名(2022年4月)



日中韓知的財産作業部会

## 1871

明治4年

税関の前身である運上所は、船舶の入出港及び輸出入貨物の積卸しに関する手続、輸出入税の徴収といった現在の税関のような業務のほか、開港地における外交事務も取り扱っていました。

明治新政府のもと、当初は、運上所の外交的な役割に着目して、外務省の管轄下に置かれていましたが、外国貿易が次第に発展していくにつれて、国の徴税機関としての役割が着目されるようになり、明治4年8月(1871年)、運上所は、財政当局である大蔵省租税寮(当時)に所管が移されました。



各開港場における輸出入税や運上所に係る事務を大蔵省へ移管することとなった開港開市場税務管轄中立(明治4年8月28日、出典:国立公文書館)



東京名所 大蔵省及び貴族院之図(明治29年、楓斎画、提供:郵政博物館)

## 1877

明治10年

明治10(1877)年、太政官達により各省の寮が廃止され、局が設置されることとなりました。

これにより大蔵省(当時)でも機構改正が行われ、租税、関税、検査などの局が設けられました。税関は関税局の所管となり、関税局内には議案、統計などの掛が設置されました。



東京・大手町に所在した大蔵省庁舎「明治大正建築写真集覧」(出典:国会図書館)

税関行政を所管する関税局は、当時の急速な産業・貿易の発展を反映し、官制の改正により統合を繰り返しました。

大正2(1913)年には、行政管理・財政整理の一環として関税局が廃止され、税関行政に係る業務は長らく主税局が所管していました。

## 1961

昭和36年

戦後における貿易の進展は、税関の業務量の増加といった量的な変化だけではなく、為替・貿易の自由化やGATT加盟後の国際社会への対応に伴い、関税政策が複雑多様化するという質的な変化ももたらしました。

このような変化に適切に対応し、関税政策の企画立案のほか、税関行政の円滑かつ弾力的な実施を確保するためには一つの独立した局で所管することが適当であるとの見地から、昭和36(1961)年、大蔵省に関税政策・税関行政を専担する関税局が再び設置され、今日に至っています。



## 2001

平成13年

中央省庁等改革に伴う新体制移行を機に、大蔵省は財務省に改称され、財務省関税局となりました。